

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称： 血管の曲率・捻率がカテーテルの誘導性・安定性および脳動脈瘤の治療成績に及ぼす影響の解析

研究の目的

脳血管内治療はカテーテルという細い管を使用して体に大きな傷をつけることなく治療できる方法で、従来行われてきた開頭手術と比較して劣らない治療成績であることから脳動脈瘤の治療においては世界的にも第一選択となりつつある方法です。

治療を行うときはカテーテルの形状によって誘導性や安定性が大きく異なるため、血管の太さや蛇行などの形状、患者の状態を参考に医師の経験によって適切な治療法や道具を選択します。しかし道具の選択には十分な経験が必要とされ、必ずしも簡単な方法ではありません。経験が不十分な医師にとっては適切な道具の選択ができず治療が完遂できなかったり、不十分に終わるなど可能性があります。そこで、血管形状を客観的に分析し、その結果から適切な道具を予測できれば経験に依存する要因を軽減させることができ、経験数が少ない医師でも十分な治療ができる助けになる可能性があります。

研究実施期間： 実施許可日 ～ 2027 年 3 月 31 日

対象となる方： 2016 年 1 月 1 日から 2026 年 12 月 31 日までに弘前大学医学部附属病院で 脳血管内治療で脳動脈瘤の根治的手術を受けられた方。 脳血管造影を受け、かつ胸部～頸部の CT 血管造影検査を受けられた方。

利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

弘前大学医学部附属病院脳神経外科で脳動脈瘤に対する脳血管内治療を受けた患者さんの基本情報（年齢、性別など）治療情報（使用機材、治療時間、結果、合併症など）および、脳血管撮影や頭部・頸部・胸部の CT 血管造影画像が解析対象になります。

具体的には、脳動脈瘤治療時の血管造影の画像から得られる動脈瘤や周囲血管の 3 次元的な屈曲率と、カテーテルの進入角度を画像解析し、治療結果として考えられる塞栓状況（完全閉塞、不完全閉塞など）と塞栓率（塞栓用コイルの体積/脳動脈の体積）を比較検討することで、血管形状に合わせた 3 次元的なカテーテル形状が設定できることを目的にします。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）、行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	脳神経外科・森田隆弘 連絡先電話番号 017.-39-5115/moritatakahiro0722@hirosaki-u.ac.jp
-------	--